



SMART ILLUMINATION

スマートイルミネーション横浜

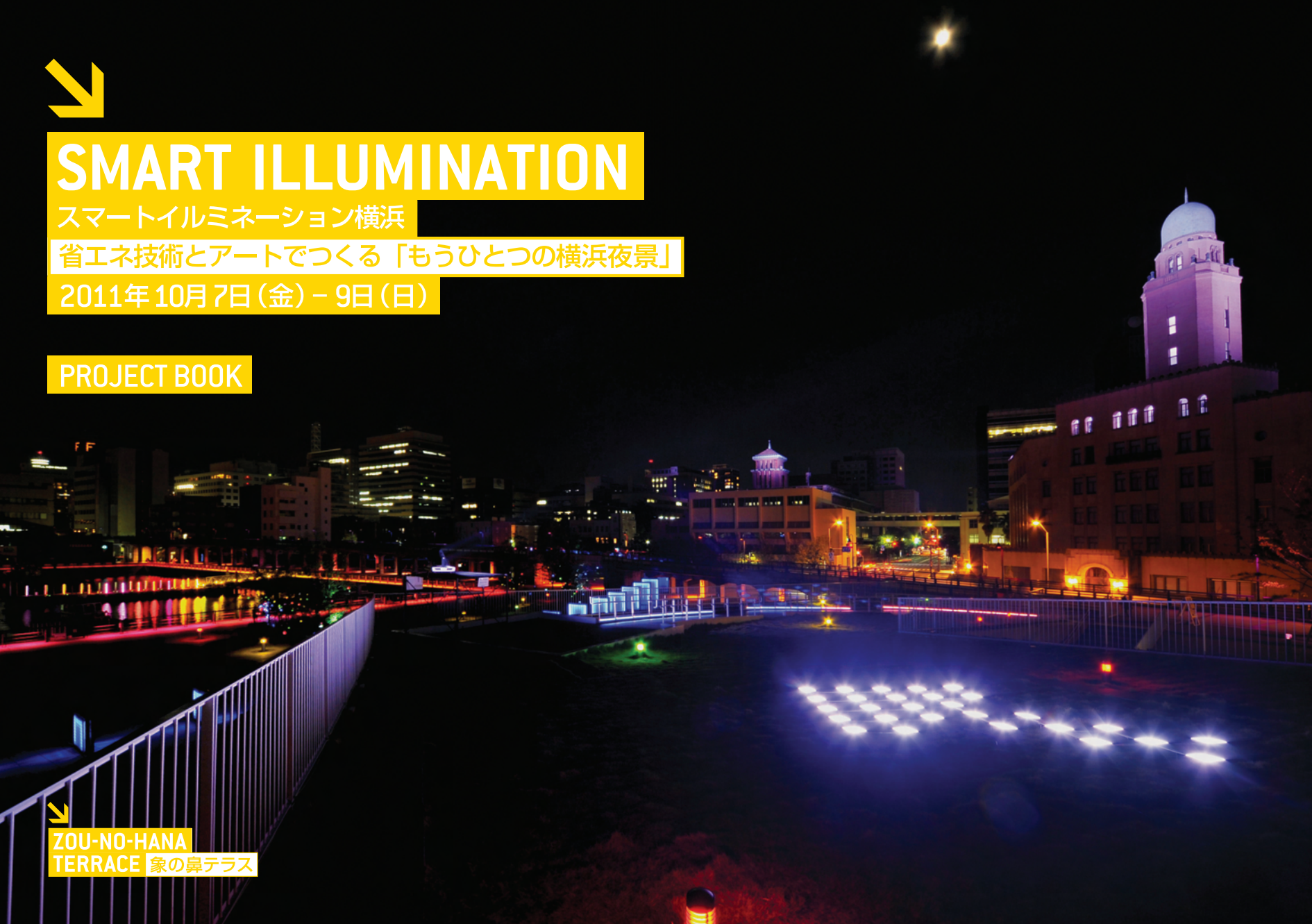
省エネ技術とアートでつくる「もうひとつの横浜夜景」

2011年10月7日(金) - 9日(日)

PROJECT BOOK



ZOU-NO-HANA
TERRACE 象の鼻テラス





アートと省エネ技術が出会った特別な夜

「スマートイルミネーション横浜」は、2011年10月7日～9日、横浜臨海部を舞台としたアートプロジェクトとして開催されました。

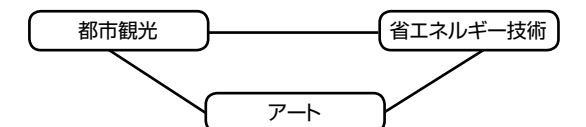
象の鼻テラスでは、2009年のオープン以来、「文化交易」をコンセプトに活動を展開しています。国内外のアーティストを招いた展覧会やダンス公演、ワークショップ、アーティストと地元企業や障害者施設との出会いによる新しいものづくりを目指す「ランデヴープロジェクト」などとともに、その活動の大きな柱となっているのが、「都市の風景に作用する」アートプログラムの展開です。これは、単に象の鼻テラスの内部で文化芸術事業を展開するのではなく、横浜という成熟した都市のスケールに見合った、横浜の都市観光にも貢献し得るアートプログラムを展開しようとするもので、2009年には事例紹介を基調とした企画展を開催したほか、2010年からは横浜の都市魅力の特色としての「夜景」に着目し、アートによる「もうひとつの横浜夜景」の創出を目指す、「夜景開発プロジェクト」を展開してきました。

こうした取り組みを踏まえ、2011年秋に本格的な「光のフェスティバル」を開催するべく準備を行っていた2011年3月11日、日本を未曾有の大震災が襲います。全国に広がる節電ムードのなか、光をテーマにしたフェスティバルを開催することには躊躇もありましたが、一方で、これからの社会資本整備においては省エネルギー技術の活用が大きなテーマとなることも予感され、省エネ技術を活用した夜景開発を試みる「スマートイルミネーション」のコンセプトが誕生しました。

象の鼻テラスがテーマとしてきた「都市観光とアートの融合」。そこに「省エネルギー技術とアート」の融合を加えることで、「都市観光」と「省エネルギー技術」を結びつけていく。世界にも類例のない「省エネ技術のショーケースともなる光の祭典」が構想されたのです。

プランの実現にあたっては、国際的に活躍する7組のアーティストにご参加いただいたほか、省エネ技術を有する企業、大学、商店街、市民団体など、多くの関係機関、団体のご協力をいただきました。また、横浜臨海部のなるべく広範囲に会場を展開するほか、参加型のプログラムを多彩に準備することで、「もうひとつの横浜夜景」を、みんなの手でつくることにも徹底的にこだわりました。

このプロジェクトブックは、こうした「スマートイルミネーション横浜」の成果を記録し、継承することを目的に制作されたものです。全国に先駆けて都市デザインや夜景演出に取り組んできた横浜の素地を生かしつつ展開された「スマートイルミネーション横浜」。この取り組みが横浜に定着する新たな光のフェスティバルへと発展するとともに、次世代の夜景開発の在り方を考える契機となることを期待しております。



03 ごあいさつ // GREETINGS

04 ライトアップエリア // LIGHT UP AREA

06 ライトアッププラン // LIGHT UP PLAN

- 1 《The Organic Nucleus / 有機中芯的「象の鼻」》
- 2 《WRAPPING THE CITY LIGHTS - 既存都市照明のカラーチェンジ-》
- 3 《TRUNK PORT LIGHT》
- 4 《ひかりの美》
- 5 山下公園(水の階段 / 世界の広場 ほか)
- 6 《Color with Sound 光と音のコラボレーション》
- 7 《Motomachi Magic Hour》

22 ツアープログラム // TOUR PROGRAM

インナーハーバークルーズ / 光の航跡
 <光のアーティスト日下淳一と巡る> イルミ・アート・ツアー!

25 イベントプログラム // EVENT PROGRAM

車座 -Post Peak Oil Orchestra-
 森日出夫夜景写真ワークショップ / 森日出夫写真展

27 ワークショッププログラム // WORKSHOP PROGRAM

高橋匡太 《ひかりの美》ワークショップーみんなでつくるひかりの樹
 子どもLED教室

28 連携プログラム // COOPERATION PROGRAM

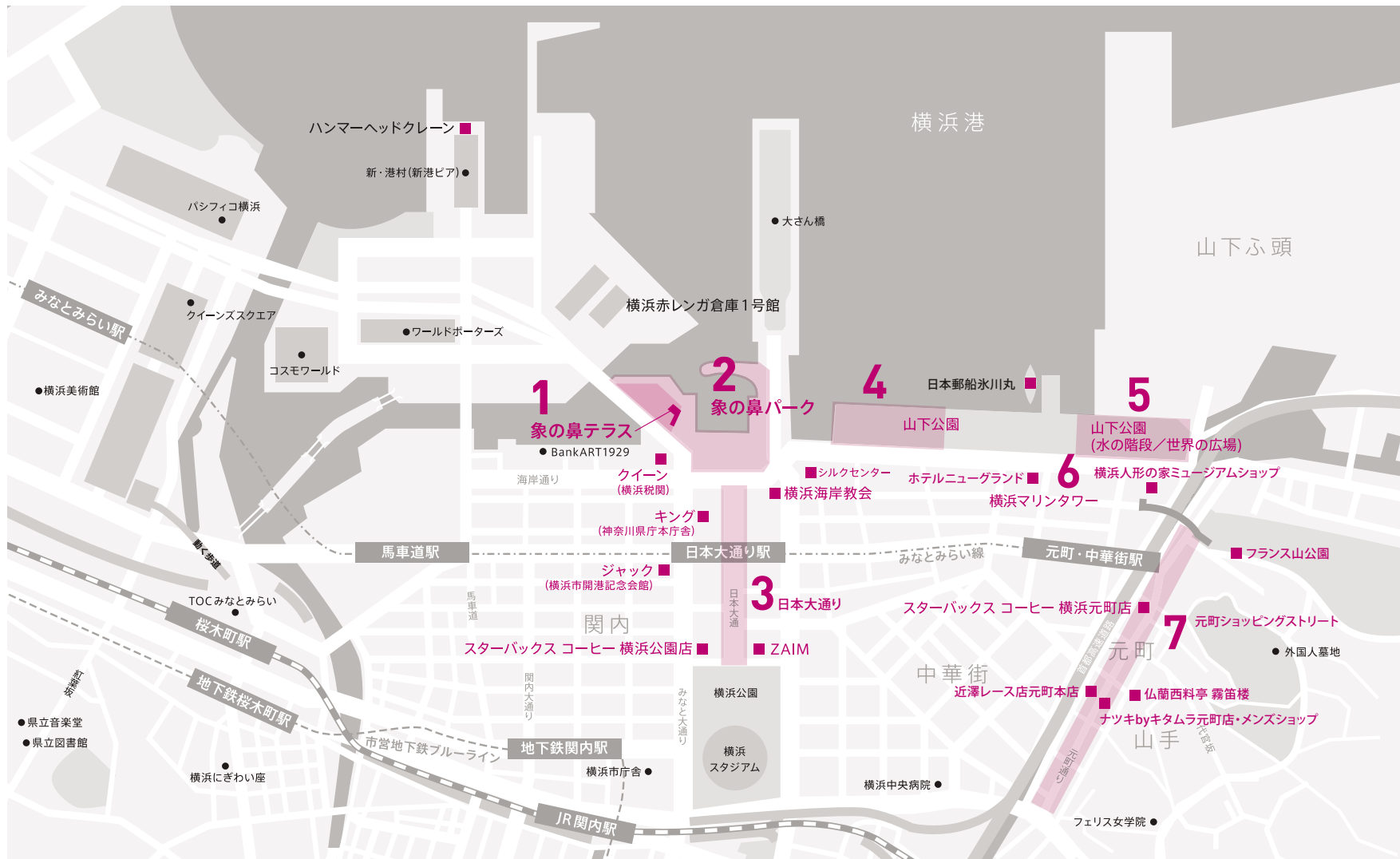
横浜夜景巡り -ひかりの美に願いをこめて-
 ペロタクシー × Monkey Light
 ヨコハマナイトピクニック
 ラストナイト「ヨコハマでアートと都市の話をしよう」

29 アンケート // QUESTIONNAIRE

30 シンポジウムプログラム // SYMPOSIUM PROGRAM

32 アーティストプロフィール // ARTISTS PROFILE

ライトアップエリア
LIGHT UP AREA



開催概要

名称: スマートイルミネーション横浜
 省エネ技術とアートでつくる「もうひとつの横浜夜景」

期間: 2011年10月7日(金)~9日(日)

会場: 象の鼻テラス、象の鼻パーク、山下公園(水の階段、世界の広場 ほか)、横浜人形の家ミュージアムショップ、横浜マリンタワー、元町ショッピングストリート、日本大通り(ZAIM ほか)、横浜海岸教会、シルクセンター国際貿易観光会館、神奈川県庁本庁舎、横浜税関、横浜市開港記念会館、スターバックス コーヒー 横浜元町店、スターバックス コーヒー 横浜公園店

主催: 象の鼻テラス

※象の鼻テラスは、横浜市 / 文化観光局と共同して、株式会社ワコールアートセンターが運営を行っています。

協力: 横浜市民ギャラリー (公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)
 デザイン: 株式会社セルディビジョン



1

象の鼻テラス／横浜三塔 (神奈川県庁本庁舎／横浜税関／横浜市開港記念会館) 《The Organic Nucleus／有機中芯的「象の鼻」》

藤本隆行+Rhizomatiks (真鍋大度、石橋素)
TAKAYUKI FUJIMOTO+Rhizomatiks (DAITO MANABE, MOTOI ISHIBASHI)

象の鼻テラスと横浜三塔が同期し、有機的に輝く。藤本隆行が展開した《The Organic Nucleus／有機中芯的「象の鼻」》は、「スマートイルミネーション横浜」の中でも最も野心的な取り組みであった。

象の鼻テラスの内部に仕込まれたLED照明。その光が、キング=神奈川県庁本庁舎、クイーン=横浜税関、ジャック=横浜市開港記念会館に波及する。テラス内に設置されたコンピューターで組まれたプログラムが、インターネットを経由し、全ての照明装置を制御しているのだ。都市的スケールに展開可能なこの演出は、LED照明を活用することで大幅な節電効果をも発揮した(既存の象の鼻テラスおよび横浜三塔のライトアップに使われている電力量が約17KWであるのに対し、本プランの消費電力は約5.5KW)。

システムの開発を担当したのはRhizomatiks。屋上部には、太陽光発電からの電力を提供されて輝く「矢印」のオブジェも設置された。

会場協力:
神奈川県庁本庁舎
横浜税関
横浜市開港記念会館
日経横浜支局ビル

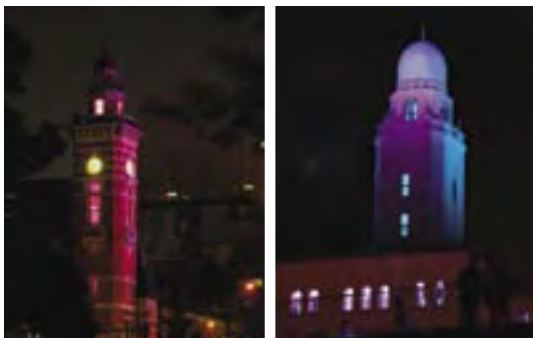
協力:
石井通人(株式会社バッファールネス)
佐々木一・大塚幸二(MountPosition)

機材提供:
カラーキネティクス・ジャパン株式会社
日東光学株式会社

ソーラーパネル提供:
株式会社ハートス

神奈川県庁本庁舎
横浜市開港記念会館 // 横浜税関
象の鼻テラス

横浜三塔





2

象の鼻パーク

《WRAPPING THE CITY LIGHTS – 既存都市照明のカラーチェンジ》

高橋匡太
KYOTA TAKAHASHI

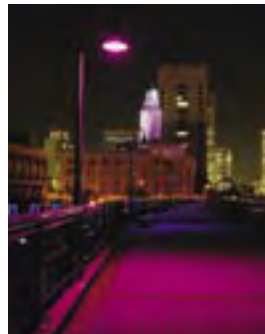
象の鼻パーク内の既存照明をカラーフィルターでラッピングすることで、街並の色を変えるプログラム。既存の都市照明を応用することにより、消費電力量を変えずに印象的な夜景が生まれ出された。

このプログラムは、抑制がききながらも、高度にデザインされた照明計画を持つ象の鼻パークでなければ成り立たなかったであろう。そしてまた、500灯にも及ぶ照明機器のひとつひとつにカラーフィルターをかける膨大な手仕事は、アーティストにしかなし得ないものといえる。「普段よりも少し長い夕暮れを楽しむ」というコンセプトで行われた高橋匡太のカラーコーディネートも来場者に高く評価されたものと思われる。

長い歴史を持つ横浜の都市デザインとアーティストの斬新かつ豊かな発想力の出会いから生まれた「もうひとつの夜景」。その幻想的な景観は、象の鼻パークに、普段とは異なる祝祭の時間をもたらした。

協力：
京都造形芸術大学 ウルトラファクトリー

機材提供：
株式会社ハートス



象の鼻パーク
象の鼻パーク
山下臨港線プロムナード

象の鼻パーク





3

日本大通り (ZAIM ほか)

大学参加プロジェクト «TRUNK PORT LIGHT»

筑波大学芸術学群 (逢坂卓郎研究室) SCHOOL OF ART AND DESIGN UNIVERSITY OF TSUKUBA
多摩美術大学 (森脇裕之研究室) TAMA ART UNIVERSITY

日本最初の近代的都市計画道路である日本大通りでは、筑波大学芸術学群と多摩美術大学の学生たちが共同で夜景づくりに取り組んだ。学生らが考案したプランは、横浜の歴史に根ざしつつ、来場者の参加性をも盛り込んだ、意欲的なものであった。

まず拠点となるZAIMでは、シンメトリーな外観を生かした印象的なプログラミング照明が展開される。そしてここで製造された「carry me」が、来場者の手で象の鼻パークへと運ばれていく。電池式のLEDで輝く「carry me」は、かつて横浜を行き来した貨物の象徴であり、文明の象徴でもある。終点となる象の鼻パークでは、貨物運搬に利用されていた「転車台」の遺構に、来場者が運んできた「carry me」を飾り付けたほか、横浜開港資料館にはプリズムを利用した壁面演出が実施された。来場者と大学生の間に豊かなコミュニケーションが発生していたことも印象に残る。

会場協力:

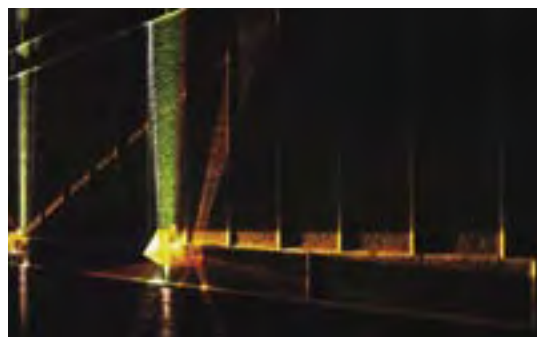
ZAIM

日本大通り活性化委員会

横浜開港資料館

機材提供:

アバゴ・テクノロジー株式会社



象の鼻パーク
ZAIM // carry me
横浜開港資料館

ZAIM



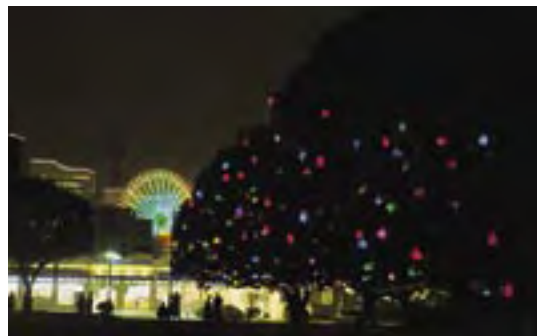


4

象の鼻パーク / 山下公園 ほか

《ひかりの実》 SHINING SMILE FRUIT

高橋匡太
KYOTA TAKAHASHI



カラフルな果物栽培用の紙袋。そのひとつひとつに、アーティスト高橋匡太により丸のドローイングが施されている。そこに参加者がスマイルを描きかき足していく。スマイルが描かれた紙袋でフルーツキャップと電池式のLED電球を包みこみ、樹木に飾り付けていく。紙袋やフルーツキャップがシェードとなることで、ひとつひとつの光源は弱くても、その光は柔らかく広がっていく。山下公園と象の鼻パークにスマイルが実っていく。《ひかりの実》は省電力という意味でも、来場者参加プログラムという意味でも、「スマートイルミネーション横浜」を象徴するプログラムとなった。

象の鼻テラスで事前に実施したスマイルを描くワークショップにも多数の参加があったほか、象の鼻テラスと山下公園に設置された「《ひかりの実》ステーション」は、連日、多くの参加者で賑わった。最終的には約4,500個の《ひかりの実》が横浜の臨海部を彩っている。

協力：
京都造形芸術大学 ウルトラファクトリー
スターバックス コーヒー ジャパン 株式会社

会場協力：
横浜海岸教会
シルクセンター国際貿易観光会館
ホテルニューグランド
横浜人形の家ミュージアムショップ
スターバックス コーヒー 横浜元町店
スターバックス コーヒー 横浜公園店
元町ショッピングストリート

《ひかりの実》ステーション：
象の鼻テラス
山下公園

象の鼻パーク
山下公園
山下公園

山下公園





《ひかりの実》は、横浜臨海部へと拡散するプロジェクトとしても展開された。地図上(5p)にある象の鼻パークと元町ショッピングストリートを結ぶ各所拠点に《ひかりの実》が設置されたほか、スターバックス コーヒーには、会期前より《ひかりの実》にスマイルを描くワークショップを展開し、そこで集まった《ひかりの実》を店内に展示していただくなど、多大な協力をいただいた。

象の鼻テラス // フランス山広場
 山下公園 // スターバックス コーヒー 横浜元町店 (15p) // ひかりの実ステーション
 象の鼻パーク // ホテルニューグランド // ヨコトリキャラバンズ





5

山下公園(水の階段／世界の広場 ほか)

I Love Yokohama

横浜を愛する人たち85,000人以上が集うmixiコミュニティ「I Love Yokohama」の参加者たちが、山下公園の水の階段、世界の広場を舞台にキャンドル演出を行った。

今回の「スマートイルミネーション横浜」のライトアッププランの中で唯一、電力をまったく使用しないプランであり、過去、現在、未来をつなぐストーリー性の高い演出もまた、来場者に目新しい印象を与えたのではないだろうか。山下公園と横浜マリンタワー、元町ショッピングストリートを繋ぐ結節点となったほか、世界の広場からの眺望には、多くの来場者から感嘆の声がもれていた。

本プログラムを実施した「I Love Yokohama」は、これまで様々な場所でキャンドルイベントの運営実績があり、今回も、企画、様々な団体からのランタン集め、毎日の設営撤去、現地での来場者のご案内などの運営にいたるまで、全て独自の体制で実施いただいた。市民団体による主体的な「スマートイルミネーション横浜」への参加のモデルケースを形成していただいた意義は大きい。

協力:

I Love Yokohama

伊勢佐木・若葉町連合青年会 (ABY)

世界の広場
世界の広場
水の階段

世界の広場





6

横浜マリンタワー

《Color with Sound 光と音のコラボレーション》



3年前より塔のライトアップを行ってきた横浜マリンタワー。LEDを活用した演出性の高いライトアップをいち早く取り入れた本施設では、今回のイベントにあわせ、これまではライトアップを行っていなかった展望フロアでの照明演出が実施された。テーマは「光と音のコラボレーション」。舞台用のLED照明を用い、展望フロアの天井面をライトアップするとともに、照明を収納するボックスに水面を設けることで、光に揺らぎをもたらすことも試みられた。

本プランは、横浜マリンタワーによる参加プログラムとして実施された。アーティストによる作品としてではなく、施設のデザイン戦略などを担当しているディレクター楠元孝夫と照明メーカーのコラボレーションにより展開されたことも特色である。今後は、こうした個別の施設、企業などによる主体的な「スマートイルミネーション横浜」への参加が、より拡大、発展していくことが期待される。

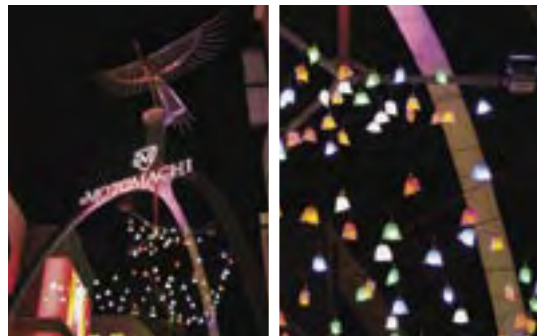
協力：
横浜マリンタワー

機材提供：
カラーキネティクス・ジャパン株式会社

横浜マリンタワー展望フロア内
横浜マリンタワー展望フロアから撮影
横浜マリンタワー展望フロア内 // 横浜マリンタワー

横浜マリンタワー展望フロア内

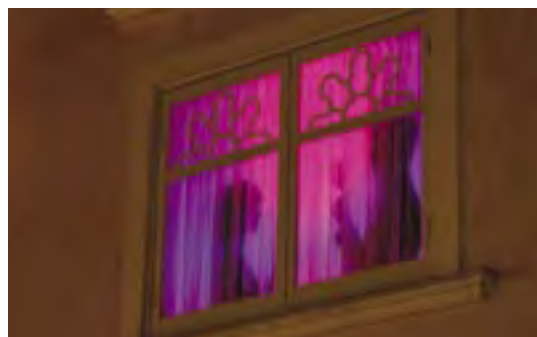




?

元町ショッピングストリート 《Motomachi Magic Hour》

演出：高橋匠太
Directed by KYOTA TAKAHASHI



高度にデザインされた街路計画と個性豊かな店舗群が特徴的な景観を生み出している元町ショッピングストリートを舞台としたプログラム。街のシンボルとなっているフェニックスアーチに《ひかりの実》が飾られたほか、イベントに賛同した20店舗で、それぞれに《ひかりの実》やLEDキャンドルを用いたショーウィンドウ等の演出を行っていただいた。さらに、仏蘭西料亭 霧笛楼、近澤レース店元町本店、ナツキbyキタムラ元町店・メンズショップでは、高橋匠太による特別演出を実施、18:00～18:30の30分間に実施された既存街灯のライトダウンとあわせ、普段とは異なる夜景を生み出した。本プログラムは協同組合 元町SS会の参加により実現した。「スマートイルミネーション横浜」の共催に名を連ねていただいた同会には、個々の店舗への事業参加の呼びかけなどでも協力をいただいております、商店街による「スマートイルミネーション横浜」の参加の先駆けとなっていただいた。

フェニックスアーチ
仏蘭西料亭 霧笛楼
ナツキbyキタムラ元町店・メンズショップ

共催：
協同組合 元町SS会

会場協力：
仏蘭西料亭 霧笛楼
近澤レース店元町本店
ナツキbyキタムラ元町店・メンズショップ

機材提供：
カラーキネティクス・ジャパン株式会社

協力：
株式会社ハートス

元町ショッピングストリート





横浜港一帯

インナーハーバークルーズ / 光の航跡 INNER HARBOR CRUISE / WAKE OF LIGHTS

演出: 高橋匡太 ガイド: 横浜シティガイド協会

Directed by KYOTA TAKAHASHI Guide by YOKOHAMA CITY GUIDE ASSOCIATION

横浜の夜景を語るうえで、海からの景観は欠かすことのできない要素である。日本大通り、象の鼻パーク、元町ショッピングストリートを結ぶ陸の散策路を形成することとともに、海からの横浜夜景を楽しむプログラムを盛り込むことは、本事業企画当初からの狙いであった。

この狙いを実現したのが、高橋匡太と横浜シティガイド協会である。高橋匡太は、船の航跡をライティングする斬新なプランを提案、投光器で港の各所をライティングしながら巡っていくクルーズの構成をプランニングしたほか、ハンマーヘッドクレーンのライティングを行っている。横浜シティガイド協会には、船に同乗していただき、横浜港の歴史を解説していただいた。実際の船の運行については、京浜フェリーボート株式会社の事業として実施されている。

横浜の港を巡りつつ、インナーハーバーの未来をイメージする。横浜の都市計画に光をあてるという意味でも、意義深いプロジェクトとなった。

開催日時:

10月7日(金)~9日(日)

各日18:30~、20:00~運行

※10月8日(土)20:00~は運休

主催:

京浜フェリーボート株式会社

協力:

株式会社ハートス

横浜シティガイド協会

機材提供:

カラーキネティクス・ジャパン株式会社(光の航跡)

株式会社ハートス(ハンマーヘッドクレーン)



赤灯台

クルーズの様子

ハンマーヘッドクレーン

象の鼻パーク





「スマートイルミネーション横浜」会場各所

〈光のアーティスト日下淳一と巡る〉 イルミ・アート・ツアー! ILLUMI ART TOUR

日下淳一 JUNICHI KUSAKA

LEDで全身を電飾した衣装をまとう日下が「スマートイルミネーション横浜」の会場を案内するツアー。参加者はピンバッジライトをつけ、動くイルミネーション作品と化す参加型プログラムとして実施された。

移動する光の一行は、設置されたイルミネーション作品や横浜の夜景と響き合い、自身をイルミネーション作品に仕立て、会場を動的に横断する日下は本イベントのシンボリック的存在として強く印象に残った。

開催日: 10月8日(土)、9日(日)

コース: ① 18:00～19:30
横浜元町一象の鼻コース

② 20:00～21:30
象の鼻-日本大通コース

※9日(日) 20:00は天候不良の為、中止

象の鼻テラス前 // 象の鼻パーク // 仏蘭西料亭 霧笛楼前



象の鼻パーク

車座 -Post Peak Oil Orchestra- THE KURUMAZA

出演・詩: 谷川俊太郎・覚和歌子 (oblaat)

空間演出: Responsive Environment (日高仁、西澤高男、山代悟、酒井聡、安味貞旭)

機材制作: 久世祥三 (MATHRAX LLC.)

企画: 松田朋春 (oblaat)

震災後の被災地や計画停電の街中で輝き続けた自動車の灯り。賛否両論ある中でも確実に社会的なインフラであり、移動の自由を保証する存在である自動車の照明装置を用いたライティング・パフォーマンス。

パソコンから自動車のヘッドライトを無線制御するシステムは、2009年より象の鼻パークで「火」を使ったインスタレーションを展開してきたResponsive Environmentにより計画された。円形に配置された17台の車がつくりだす、これまでにない、屋外の劇場空間。そこに、谷川俊太郎と覚和歌子のポエトリーリーディングが組み合わせられる。これまで震災については沈黙を守ってきた谷川が初めて震災をテーマにした詩を書き下ろすなど、詩の世界においても意味のある取り組みとなった。

なお、本プログラムは「車のヘッドライトを早めにつけよう」という呼びかけを行っている、おもいやりライト運動事務局の特別協力により実施された。

開催日時: 10月9日(日) 18:30～19:30

特別協力: おもいやりライト運動事務局

機材提供: オリックス自動車株式会社





象の鼻テラス、象の鼻パーク ほか
森日出夫夜景写真ワークショップ／森日出夫写真展
HIDEO MORI NIGHT VIEW PHOTO WORKSHOP &
PHOTO EXHIBITION

森日出夫 HIDEO MORI

昨年の「夜景開発プロジェクト」から継続してプロジェクトに参加していただいている横浜出身の写真家の森日出夫。今年度は、写真愛好家を対象とした「横浜夜景写真ワークショップ」と、「スマートイルミネーション横浜」の会場を森自身が撮り下ろした「森日出夫写真展」を開催した。長く横浜を撮影してきた森の写真は、スマートイルミネーションが創出した「もうひとつの横浜夜景」の美しさを情緒豊かにとらえている。また、ワークショップにおいては夜景撮影のポイントとなる絞りやシャッタースピードの設定について森自身が作成した詳細なテキストが配布されるなど、極めて充実した内容となった。ワークショップ参加者が撮影した写真は、写真展初日に開催した講評会を経て、「森日出夫写真展」で展示された。

森日出夫 横浜夜景写真ワークショップ

開催日時: 10月7日(金) 18:00～

講評会: 10月16日(日) 16:00～

スマートイルミネーション横浜 森日出夫写真展

開催日: 10月16日(日)～10月22日(土)

協力: 株式会社アマノスタジオ



象の鼻テラス／山下公園
高橋匡太《ひかりの実》ワークショップ
みんなでつくるひかりの樹
KYOTA TAKAHASHI
《SHINING SMILE FRUIT》WORKSHOP

参加者全員で100個の《ひかりの実》を制作。できあがった《ひかりの実》を山下公園に運び、一本の樹に飾り付けるワークショップを実施した。《ひかりの実》の制作過程が全て体験できるワークショップとなった。

開催日時: 10月8日(土) 18:00～



象の鼻テラス
子どもLED教室
LED WORKSHOP CLASS FOR CHILDREN

LEDの歴史や仕組み、通常の電球とLEDの消費電力の違いなどを楽しみながら学ぶことができる体験学習教室。「スマートイルミネーション横浜」への後援をいただいたLED照明推進協議会により実施された。

開催日時: 10月8日(土)

14:00～、15:00～、16:00～

企画: LED照明推進協議会





横浜夜景巡り - ひかりの実に願いをこめて -
YOKOHAMA NIGHT VIEW TOUR

横浜シティガイド協会が例年実施している秋の企画ツアーとして、「スマートイルミネーション横浜」の会場を巡るツアーを実施していた。スマートイルミネーションの主旨、特に《ひかりの実》に共感しての実施となった。

開催日時: 10月7日(金) 16:30 ~ 19:30
主催: 横浜シティガイド協会



ペロタクシー × Monkey Light
VELO TAXI YOKOHAMA × MONKEY LIGHT

ペロタクシーのホイールに「Monkey Light」を装着、エコでキュートなペロタクシーが3日間限定の光るオブジェとなり、「スマートイルミネーション横浜」の会場を巡った。横浜ペロタクシーによる参加プログラム。

開催日時: 10月7日(金)~9日(日)
周遊エリア: 象の鼻テラス、象の鼻パーク、山下公園、横浜マリンタワー、元町中華街、日本大通りほか(乗り場:日本大通り)
主催: 横浜ペロタクシー



ヨコハマナイトピクニック
YOKOHAMA NIGHT PICNIC

象の鼻テラス屋上からスマートイルミネーションで煌めく象の鼻パークの風景を楽しむ夜のピクニックイベント。象の鼻テラス内では地場産品を用いた料理を提供するマルシェも展開され、夜景を楽しむ多くの来場者で賑わった。

開催日時: 10月8日(土) 17:00~
開催場所: 象の鼻テラス屋上
主催: 横濱まちづくり倶楽部



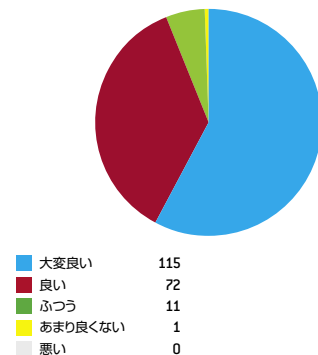
ラストナイト「ヨコハマでアートと都市の話しよう」LAST NIGHT

同時期に横浜の夜を舞台としたアートイベントを開催した「スマートイルミネーション横浜」と「港のスペクタクル Cinema de Nomad」の合同企画。都市を面白くするプログラム形成について、建築家やアーティスト、学生らの多彩なアイデアが飛び交った。

開催日時: 10月9日(日) 20:00~23:00
進行: 藤原徹平(NPO法人ドリフターズ・インターナショナル 代表) 守屋慎一郎(象の鼻テラス プランナー)
ゲスト: 城戸崎和佐(建築家)、大西麻貴(建築家)、内海昭子(現代美術家)、田村友一郎(現代美術家)、大学参加プロジェクト参加学生ほか
企画協力: NPO法人ドリフターズ・インターナショナル

「スマートイルミネーション横浜」の来場者を対象に行ったアンケート結果

「スマートイルミネーション横浜」のご感想をお選びください



「大変良い」の理由

- ・楽しいし見ていると気持ちがあたたまるから
- ・秋のイルミネーションだから
- ・学生などの発表の場であるから
- ・横浜を活性化できるから
- ・夜のイベントは少ないから
- ・子どもが興味を持ったから
- ・夜の散歩が楽しめるから
- ・心の潤いになるから
- ・反対する理由がない
- ・綺麗・平和・エコだから
- ・横浜の様々な魅力をアピールしてほしい
- ・横浜の新名所になる予感
- ・人と繋がるイベントだから
- ・3.11以降暗いイメージだから
- ・雰囲気が良いから

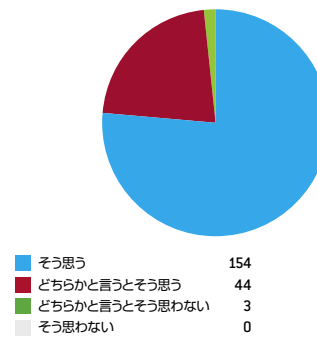
「良い」の理由

- ・結構きれいだったから
- ・また来たいと思うから

「ふつう」の理由

- ・イベント資金が気になるから

「スマートイルミネーション横浜」を来年で降も続けるべきだと思いますか？



「そう思う」の理由

- ・いつもと違う風景だから
- ・ムードがあるから
- ・色が美しいから
- ・環境にも優しいから
- ・いつものイルミネーションと違うから
- ・夜景の暗さと光のコントラストがきれい
- ・あたたかみを感じるから
- ・幻想的で素敵だから
- ・観光資源になりうるから
- ・「何かやっている」とわくわくしたから

「どちらかと言うとそう思う」の理由

- ・日常の風景を変えることはない
- ・最近夜景を楽しむ場所が少なかったから
- ・横浜らしいイベントだから

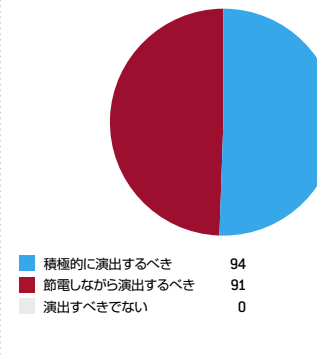
「どちらかと言うとそう思わない」の理由の理由

- ・もっと派手だと思っていたから

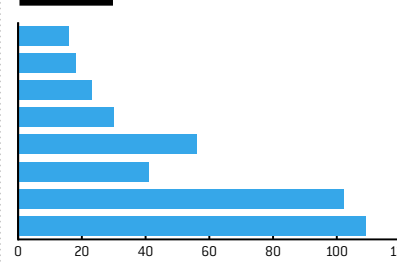
「そう思わない」の理由

- ・少しさみしいから

横浜の夜景演出についてどう思いますか？



良かったと思う夜景演出をお選びください エリア編



アンケート実施概要

実施期間: 10月7日(金) ~ 9日(日)
実施場所: 象の鼻テラス、山下公園、日本大通り、元町ショッピングストリート
集計数: 189名
協力: 横浜市立大学鈴木ゼミ

「スマートイルミネーション横浜」でライトアップしてほしい場所をお書きください

大さん橋	22	大通り公園
山下公園をもっと	15	ナビオス横浜
赤レンガ	13	みなとみらい近辺
港の見える丘公園	8	寿町
山手地区	7	スカイウォーク
海		風力発電所
歴史的建造物	6	中華街
(開港資料館など)		県民ホール
街全体		パシフィコ横浜
横浜美術館	5	インターコンチ
氷川丸	4	小港町一丁目
港湾施設		本牧~小港
駅からの順路	3	マリンタワー全体
市庁舎		警察署
横浜スタジアム	2	岸根公園
汽車		ジャックモール
ハンマーヘッドクレーン		参加者自体
玉楠の木		古いビル
外国人墓地周辺		国立大ホール
ベイブリッジ		日本大通り
馬車道		横浜公園
ランドマーク		横浜駅東口
日本丸		横浜国立大学
桜木町駅		ペイバイクの事務所
ジャックの塔		
三溪園		



象の鼻テラス

スマートイルミネーション・シンポジウム
SMART ILLUMINATION SYMPOSIUM

「スマートイルミネーション横浜」の主旨である「公共空間における環境共創型夜景演出」について、この意味や意義を確認するとともに、この取り組みがより大きく発展していくためのビジョンについて語り合うシンポジウムを開催した。

第一部のアーティストトークでは、参加アーティストよりそれぞれが実現したプラン内容の紹介が行われたほか、第二部では、産学官・市民それぞれの立場から、スマートイルミネーションに対する印象や期待などについて発言をいただいた。

スマートイルミネーション・シンポジウム

開催日時： 10月7日(金) 15:30～17:30

協力： ヨコハマ夜景演出事業推進協議会

1 アーティストトーク

司会進行： 岡田勉(象の鼻テラス アートディレクター)

パネリスト： 高橋匡太、藤本隆行、森日出夫、
西澤高男(Responsive Environment)

2 シンポジウム

司会進行： 松田朋春(象の鼻テラス プランニングディレクター)

パネリスト： 楠元孝夫(株式会社TKスクエア 代表)
国吉直行(横浜市立大学国際総合科学部 特別契約教授)
小宮章利(LED照明推進協議会 広報委員長)
近澤弘明(株式会社近澤レース店 代表取締役社長)
中山こずゑ(横浜市文化観光局 横浜魅力づくり室 室長)



第二部:シンポジウムの発言要旨

スマートイルミネーションのコンセプト

スマートイルミネーションの企画のポイントは大きく3つ。ひとつは「スマート」であること。全国的に推進されているスマートシティへの取り組みが、観光振興の切り口にもなってくる。二つ目が「照明技術×アート」。照明技術のプレゼンテーションとクリエイティブのプレゼンテーション、都市のプレゼンテーションを全て掛け合わせているところに発展性がある。最後が「分散配置と市民参加」。多様な主体が、横浜のいろんな場所で美しさを競いあうことで発展性がでてくる。(松田)

産業界からの期待

スマートイルミネーションは、アーティストの方々いろいろと新しいことを試みることがひとつのポイントになっている。アーティストの斬新なアイデアは、最終的には産業にも応用できるのではないかと期待している。小さな規模では通り過ぎられてしまうが、横浜市が大々的にやることで、産業界にも大きなインパクトを与えられる。LED照明に注目が集まるようになったのはごく最近のこと。しかし私たちの生活の身近なところにLEDが浸透する時代はすぐそこまで迫っている。展示会への注目、ニーズも高く、横浜で大きな展示会があれば、いろいろな企業が集まってくるのではないかと。(小宮)

都市デザインとスマートイルミネーション

横浜はいち早く1971年から都市デザイン、1986年から夜景演出に取り組んだまち。夜景演出の基本は都市基盤としての、都市空間づくりの戦略としてのライトアップ。単に楽しく美しくライトアップを行うのではなく、新しく変えていきたい場所、古く歴史的名ものを大切にしたい場所に意図的にライトアップを仕掛け、横浜の個性を再発見してきた。

屋間の景観とあわせて関内、元町やみなとみらいといったそれぞれのまちの個性を40年かけてつくり続けてきて、そのなかで現在の横浜都心部の水際線もできあがってきた。スマートイルミネーションについては、クリエイティブを生かしたものを期間限定でやるということで、都市デザインとして推進してきたベーシックな夜景演出とはまた異なる夜景の厚みがあると期待しているが、演出性が高い照明については特に、賛成しない人もいるという課題もあるので、実験的なことが許容されるようなベースをどうやってつくるか。また、社会的な意味をもった照明技術のショールームになるとアピールできれば、照明器具メーカーさんからも協力が得られると思う。(国吉)

モデルとしてのリヨン「光の祭典」

フランス、リヨンの「光の祭典」は、4日間で380万人を集客している。ポイントは分散配置、アーティストのクリエイティブの活用、参加者の多様性。300ものサイトがリヨンという都市の構造を見せるために意図的に分散配置されており、立体駐車場のよう風景論的にはネガティブな場所もアーティストの発想によって魅力的に生まれ変わっている。一方で、アーティストだけでなく市民が自分たちで工夫してライトアップに参加しているのも特徴。「光の祭典」の実行組織である「LUCI」には50人以上の有識者らが参加しているが、行政からは3人のみで、詩人や小説家も参加している。都市開発などの領域に直接関わっていない人たちが参画することもこれからの都市の魅力、新しい都市の表情をつくってゆくうえで大事。(楠元)

象の鼻は格好の実験場、

地元からもどんどん仕掛けていく

地元が必ずしも賛成しないというのは常に課題になること。そういう意味では象の鼻は格好の場所。ここには誰も住んでいないし、反対する人がいない。ここでどんどん実験的なことに挑戦していければいい。リヨンの話を聞いて意を強くしたが、このイベント「スマートイルミネーション横浜」に地域全体で10万人、

20万人の人が来るようになれば商売にもつながるだろう。元町についても暗くなるのが早いという指摘を受けるが、エイプリルフルデー(4月1日に突然店の中でワインを出すイベント)など、色々なイベントを仕掛けている。文化観光局をつくることも実は10年前から提案していたことがようやく実現したわけで、行政に対して外から文句をいう、我々みたいな人間が増えていくことが大事。(近澤)

スマートイルミネーションは次世代の夜景、横浜はナンバーワンを目指す

スマートイルミネーション、すごくいい言葉だと思っている。このコンセプトを聞いたとき、ものすごくワクワクして、これは最先端の技術とアート、それから民間と大学と役所を結び、ひとつの言葉になっていると思った。横浜には先取の気風がある。スマートイルミネーションは次世代の夜景のかたち。これからの夜景づくりは必ずこの方向に行く。(だから世界の最先端、スマートイルミネーションといえば横浜というポジションを得られるように取り組んでいただきたい、という松田からのコメントに対して) もちろんです。ナンバーワンじゃないと動いてもらえません。(中山)

藤本隆行 TAKAYUKI FUJIMOTO (インディペンデントディレクター、 照明デザイナー)

1987年、ダムタイプに参加。主に、照明並びにテクニカル・マネージメントを担当する。近年は個人的に、海外も含めた多くのアーティストとコラボレーションを行い、LED照明を含めたデジタル・デバイスと人体の高密度の同期化に焦点を当てた、有機的な舞台を構築している。

Rhizomatiks (真鍋大度、石橋素)

Web、インタラクション、グラフィック、さらにはインテリアやプランニングの分野まで幅広いフィールドで活動。独自のスタイルでデザインに取り組み、ART=問題提起、Design=問題解決と解釈する一貫した論を持ち、それをアート、コマーシャルの世界で現実のものとしていく。
<http://rhizomatiks.com/>

森日出夫 HIDEO MORI (写真家)

横浜市生まれ。JPS (日本写真家協会) 所属。長年撮り続けた横浜の港・街・人を「森の観測」と名づけ、それらの作品を写真集や個展に多数発表している。独自の感性で森の「記憶」を記録する。1993年写真集『森の観測 vol.2-WALL・記憶へ』、1995年写真集『YOKOHAMA PASS ハマのメリーさん』刊行、1996年ニューヨークADC賞受賞、2001年第50回横浜文化賞奨励賞受賞、2010年8×10による人物全身像写真集『わたし』刊行。
<http://www.amano-studio.co.jp/>

高橋匡太 KYOTA TAKAHASHI (アーティスト)

1970年京都生まれ。1995年京都市芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。映像と光によるアートプロジェクト、パブリックプロジェクション、インスタレーション、パフォーマンス公演など幅広く活躍。京都・二条城、十和田市現代美術館など大規模な建築物のライティングプロジェクトは、ダイナミックで造形的な映像と光の作品を創り出している。ミラノサローネへの出展をはじめ国際的に活動を行っている。2011年、京都で開催される国民文化祭の開閉会式の芸術監督に就任。1995年キリンコンテンポラリーアワード'95最優秀作品賞、2005年京都府美術工芸新鋭選抜展2005最優秀賞、五鳥記念文化賞美術新人賞、グッドデザインアワード2005 (環境デザイン部門)、2008年京都府文化賞奨励賞、2010年京都市芸術新人賞などを受賞。
<http://www.kyoto.jp/>

日下淳一 JUNICHI KUSAKA (アーティスト)

横浜市生まれ・在住。東京藝術大学大学院美術研究科修士課程修了。1994年「人間の条件」展 (スパイラル) で、衣食住をテーマとする3部作を発表。以降「衣」作品を中心に、国内外の画廊、美術館で発表を続けている。囚人服のイメージが強い白黒の縞模様で仕立てたビジネススーツや花柄の建築土木作業服、赤い白衣など社会通念を覆すような「衣」に始まり、アロハシャツの生地やフェイクファーで仕立てた学生服などを発表。2008年以降、電飾スーツなど奇抜な衣装を着て、美術展などのオープニングパーティーや街頭へ出没するパフォーマンスを行っている。
<http://blogs.yahoo.co.jp/junichikusaka/>

oblaat (オブラート)

oblaatは、メディア自体を詩的な操作対象にした現代詩レベル。本の世界に閉じ込められていた詩の仕事を、プロダクト、空間、情報技術の場で展開。これまでの作品として、poemicro (ポエミクロ)『顕微鏡のための詩五編』(谷川俊太郎)、poepencil (ポエペンシル) シリーズ『一行ーダース』(谷川俊太郎)、『てにをは少女のみみつ』(文月悠光)、『12本の詩のある鉛筆』(御徒町町)、iPhone/iPadアプリpoeagram (ポエグラム)、『私の胸は小さすぎる』(谷川俊太郎) など。展覧会として、2009年「はだかー谷川俊太郎 詩と空間」(SHIBaura HOUSE / 芝浦)、2010年「十二月をほんとは、どこで誰と過ごしたいですか?」(optitude / 南青山) など。
<http://www.oblaat.jp/>

谷川俊太郎 SHUNTARO TANIKAWA (詩人)

1931年東京生まれ。詩集『二十億光年の孤独』でデビュー。詩作品に『生きる』『朝のリレー』、アニメ『鉄腕アトム』主題歌作詞など。『マザー・グースのうた』『スイミー』、スヌーピーの翻訳者としても知られる。読売文学賞、日本翻訳文学賞、萩原朔太郎賞ほか受賞多数。近著に、恋愛詩ベスト「私の胸は小さすぎる」がある。デザイナーレベル「oblaat」同人。

覚和歌子 WAKAKO KAKU (詩人)

2001年『千と千尋の神隠し』主題歌『いつも何度でも』で日本レコード大賞金賞ほか受賞。SMAP、平原綾香、夏川りみ、新垣勉、クミコ等に詞作品を提供。朗読詩集『ゼロになるからだ』(徳間書店)他、著作多数。2008年、映画『ヤー チャイカ』では監督・脚本 (谷川俊太郎 / 共同監督)。国内外での朗読ライブ、自唱コンサート、舞台演出、脚本、翻訳など、詩作を軸足に多方面での活動を展開。
<http://kaku-wakako.com/>

Responsive Environment (日高仁、西澤高男、山代悟、酒井聡、 安味貞旭)

Responsive Environmentは、空間に関わる様々な領域をクロスオーバーするコラボレーションにより、空間表現を行うユニットである。1993年の結成以来、様々なパフォーマンス、インスタレーションや建築に関わる作品の制作、プロジェクトの発表を行ってきた。メンバーがコラボレーションを行う際の共通言語は、「空間」である。空間を媒体とした多分野の表現者が相互に空間について語る時、そこには必然的に時間や動きが重要なファクターとして介入してくる。常に変容する空間 / Responsive Environmentを共通のオープン・プラットフォームとした表現活動を行うことを目的として、ユニットは構成された。
<http://www.responsiveenvironment.com/>



スマートイルミネーション横浜 省エネ技術とアートでつくる「もうひとつの横浜夜景」 SMART ILLUMINATION YOKOHAMA

開催日時: 2011年10月7日(金) ~ 9日(日) 18:00 ~ 23:00
参加アーティスト: 日下淳一、高橋匡太、谷川俊太郎・覚和歌子 (oblaat)、藤本隆行、森日出夫、Responsive Environment (日高仁、西澤高男、山代悟、酒井聡、安味貞旭)、※五十音順
参加大学: 多摩美術大学(森脇裕之研究室)、筑波大学芸術学群(逢坂卓郎研究室)、横浜市立大学 象の鼻テラス
主催: 協同組合 元町SS会
共催: おもいやりライト運動事務局
特別協力: 佐々木一・大塚幸二 (MountPosition)、神奈川県庁本庁舎、横浜税関、横浜市開港記念会館、京浜フェリーボート株式会社、スターバックス コーヒー ジャパン 株式会社、日本大通り活性化委員会、ヨコハマ夜景演出事業推進協議会、京都造形芸術大学 ウルトラファクトリー、横浜海岸教会、横浜マリントワー、横浜ペロタクシー、I Love Yokohama、伊勢佐木・若葉町連合青年会 (ABY)、横浜シティガイド協会、横浜まちづくり倶楽部、シルクセンター国際貿易観光協会、株式会社エクスポート、横浜開港資料館、ホテルニューグランド、日経横浜支局ビル、株式会社中川ケミカル、山手迎賓館、石井通人 (株式会社/パフアールネス)、ヨコトリキャラバンス ※順不同

機材提供: アバコ・テクノロジー株式会社、カラーキネティクス・ジャパン 株式会社、株式会社ハートス、株式会社京成電子、日東光学株式会社、オリックス自動車株式会社
後援: LED照明推進協議会
企画・制作: スパイラル / 株式会社ワコールアートセンター
グラフィックデザイン: so+ba
写真: 森日出夫

「スマートイルミネーション横浜」は「ヨコハマトリエンナーレ2011」連携企画、及び「OPEN YOKOHAMA 2011」参加事業です。

YOKOHAMA
TRIENNALE
2011

OPEN YOKOHAMA
2011 8/6-11/6
イベント・アート・展覧・交流の場
開幕! 知らなかった横浜に会いにこよう。

Avago
TECHNOLOGIES

nitt/h

Color Kinetics Japan

HEART-S

making a new evolution
HEART-S

ORIX オリックス自動車株式会社

スマートイルミネーション横浜 PROJECT BOOK

編集: 守屋慎一郎 倉持陽介 小泉智子
デザイン: so+ba
写真提供: 森日出夫(表紙、2p、3p、28p、34p、背表紙)
高橋匡太(12p、14p)
平野春菜(10P)
kukuru株式会社(27p、30p)
横浜シティガイド協会(28p)

シンポジウム採録: 藤村恭子
印刷: 株式会社協進印刷
企画・制作: スパイラル/株式会社ワコールアートセンター
発行: 2011年 象の鼻テラス

付属DVDコンテンツ

「スマートイルミネーション横浜」ドキュメント映像DVD
撮影・編集: kukuru株式会社
DVDプレス: 2011年 象の鼻テラス

DVDビデオ対応のプレーヤーまたはPCで再生して下さい。
この映像プログラムを著作権者の許諾なく無断で複製、
放送、業務的上映をすることは法律で禁じられています。
また、この映像プログラムに収録された画像または音声を
ネットワーク等を通じて放送できる状態にすることを固く
禁じます。

.....
《ひかりの実》山下公園(35p)

《WRAPPING THE CITY LIGHTS - 既存都市照明のカラーチェンジ - 》象の鼻パーク
(背表紙)



